



第7回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティを醸成し、産官学の対話を促進することにつながると期待されます。

本セミナーは、2～3 か月に一度の頻度で開催し、全 10 回を予定しております。毎回、2 名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を聞くことができ、講師の先生と直接お話しいただける場を提供します。

第 7 回目は、iPS 細胞がもたらす新たな軟骨疾患研究と実用化段階に入った遺伝子治療の最前線をテーマにとりあげ、多数の皆様に参加いただきました。

日 時：2016 年 3 月 11 日（金） 15:00～18:00

会 場：KMO カンファレンスルーム B-01（グランフロント大阪 北館 タワーB 10 階）

15:00-16:00 「iPS 細胞がもたらす新たな軟骨疾患研究」

京都大学 iPS 細胞研究所

教授 妻木 範行

軟骨には関節軟骨成長軟骨の 2 種類がある。関節軟骨損傷は運動時痛を起こし、成長軟骨障害は骨格の変形や低身長の原因となる。人工多能性幹細胞(iPS 細胞)が開発されて以降、軟骨疾患患者の皮膚細胞や血液細胞から iPS 細胞を作り、それを軟骨細胞に分化誘導することで、患者自身の軟骨細胞、更には軟骨組織を得ることが可能になった。我々は、iPS 細胞由来軟骨細胞／軟骨組織を関節軟骨損傷に対して移植する再生治療研究や、軟骨形成異常症に対して患者の iPS 細胞を作り、それを軟骨細胞へ分化誘導する疾患モデル研究を行っている。



16 : 00-17 : 00

「復活した遺伝子治療 ～最近の成果と課題～」

大阪大学大学院 医学系研究科

教授 金田 安史

2015 年 10 月に腫瘍溶解ヘルペスウイルスが癌治療薬として米国で承認された。西欧諸国で 2 件目の遺伝子治療製品の承認である。2010 年前後から、レーバー黒内障、血友病 B などの遺伝性疾患の遺伝子治療や、腫瘍溶解ウイルスや CAR-T 細胞の開発による癌遺伝子治療で成功例が増加している。一方、ゲノム編集技術を用いた遺伝子治療も実施されている。我が国においても、遺伝子治療の企業治験や医師主導治験が増加し、有望な遺伝子治療法も育ってきている。遺伝子治療の医療への貢献は今後ますます大きくなり、企業の参画も期待できる状況になってきた。



17 : 00~18 : 00

交流会・名刺交換会

会場： 公益財団法人都市活力研究所 セミナー室



監 修：坂田恒昭（大阪大学大学院基礎工学研究科 特任教授）

竹田 潔（大阪大学大学院医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター教授）

後 援：大阪医薬品協会

共 催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

主 催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人都市活力研究所

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（魚谷、梅村、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村）